

大館能代空港工事が順調に進展

ターミナルビルは「木のぬくもり」をアピール

市議会12月定例会行政報告

強風による被害額9、340万円

市議会十二月定例会が十二月六日に招集され、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものを伝えします。

なお、今定例会で審議された議案等については一月十六日号で報告します。

国勢調査の

実施概要について

平成七年度国勢調査を実施するにあたり、実施本部を設置するなど、万全な態勢で取り組んできました。市民の皆さんのご協力をいただき、順調に調査が終了しました。改めて皆さんのご協力に対し厚くお礼申し上げます。

現時点において市が独自に集計したところ、当市の総人口は六万七千二百四十四人で、前回の平成二年に比較し九百八十一人、約一・四％の減少となりました。また世帯数では二万二千百十七世帯で、前回に比較し六百八十一世帯、約三・二％増加しています。

この数値のみでは一定の分析は難しいところですが、昭和六十年と平成二年との比較では三千五百九十八人の減少であったのが、今回は九百八十一人となっており、人口の減少は鈍化傾向にあると認

識しています。この主たる原因として、プラス面では秋田職業能力開発短期大学の開学、国・県を始めとする公共事業の拡大等が、また、マイナス面では少子化、鉱山の閉山等が考えられます。

市の活性化を図るためには、ぜひとも人口の減少に歯止めをかけるなければならぬと考えます。このため、都市機能の整備など各種施策を積極的に展開しながら魅力ある街づくりを目指します。五大プロジェクト、三大対策の推進など第三次総合開発計画後期計画の達成に向け、なお一層の努力をしますので、よろしくご理解、ご協力をお願いします。

大館能代空港

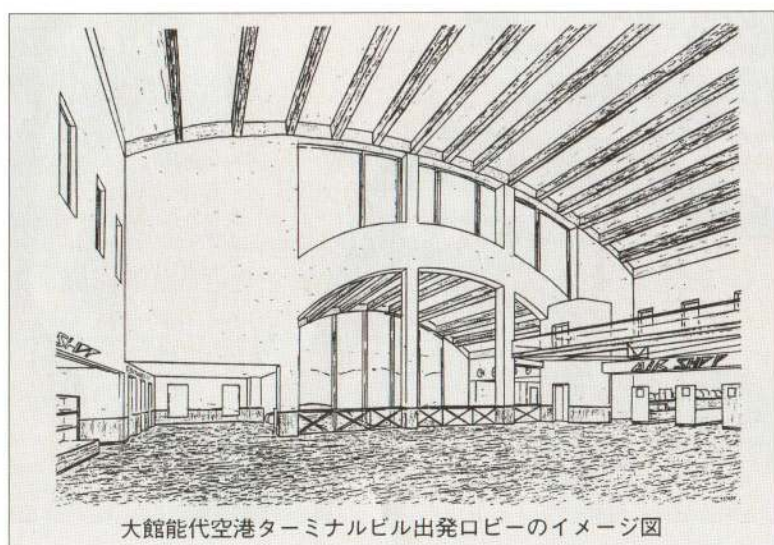
ターミナルビルについて

大館能代空港は順調に工事が進み、進捗率は五〇％を超えています。大館能代空港建設促進期成同盟会では、平成十年八月に

森吉町で開催される「第十二回日本ジャンボリー」に間にあうよう、県及び関係省庁に早期開港の陳情活動をしています。

さて、大館能代空港の顔となるターミナルビルについては、十一月十四日に最終の「ターミナルビル基本計画検討委員会」が開かれ、

基本計画についての結論が出されたところ。その概要は、工事費は約十五億円で、鉄筋コンクリート造り三階建て。面積は三千五百四十平方メートルで、長野県の松本空港とほぼ同じ規模です。天井、梁、壁の内装を中心に大断面集成材も活用するなどして秋田杉を積極的に使用し、「木のぬくもり」をアピールする方向になっています。現在、検討委員会が出された基本計画をもとに基本設計に入っており、平成八年秋ごろビル建設に着手し十年の春には完成する予定となっています。



大館能代空港ターミナルビル出発ロビーのイメージ図

また、ターミナルビルを管理運営する「大館能代空港ターミナルビル株式会社」については、十一月十六日に会社が設立され、その初代の代表取締役社長を、私が仰せつかったところです。今後は、空港利用者にとって利用しやすいターミナルビルにしていくとともに、会社経営を一日も早く軌道に乗せるべく鋭意努力していく所存であり、ますので、皆さんのご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。